

実践型インターンシップ参加学生の就職活動動向調査

実践型インターンシップを経験し、今年度卒業する13年卒の大学生、大学院生約40名に就職活動についてのアンケート調査を実施しました。実践型インターンシップが就職活動に対してどのような影響を与えるのかについて明らかにしました。

1、本調査の背景

就職氷河期が叫ばれている昨今、大学生の就職率も若干の上昇がみられるものの、依然改善したと言えるレベルにはなく、学生の就職活動を取り巻く環境は、厳しい状況が続いています。そうした状況の中で、多くの大学において、就職活動の準備としてのキャリア教育や資格取得、インターンシップの推進が進められています。しかしながら、そうした取り組みが必ずしも実態を反映させているとは言い難く、またどのような形で学生の就職活動に影響を与えているのかについては不透明なままです。G-netでは、実践型インターンシップを推進しており、この取り組みがどのような形で学生の就職活動に影響を与えているかの実態を把握するため、本調査を行いました。

2、主な調査結果と見解

①実践型インターンシップは、若者の職業観を育む！

「実践型インターンシップは将来やりたいことを見つけることに役に立ちましたか？」という問いに対して、100%の学生が役立った[「大変役立った」45%、「多少役立った」55%]と回答しました。実践型インターンシップの経験を通して「自分の中で就職における判断のベースとなる“軸”が形成された」というコメントが多数ありました！

②実践型インターンシップを経験した学生は、就職活動において重視するポイントが明確になり、効率的で集中的な就職活動を実践。

実践型インターンシップを経験した学生は、エントリーシート提出数の平均が12.7社になり、全国平均の約半分弱に減少しています。これは、①に伴い自分の軸に沿った就職活動を展開することで、重視するポイントが絞られ、効率的で集中的に行ったこと要因だと伺えます。

③企業選びにおいて、「やりがい、社会貢献度」を重視する学生が多く、「福利厚生、安定性」を重視する学生は少ない。

企業選びの基準において、全国平均に比べ「やりがい、社会貢献度」を重視する学生が多く、「福利厚生、安定性」の項目を重視していた学生は平均よりも極端に低い結果となりました。若者の安定志向が叫ばれる昨今において真逆の結果となりました。

3、【結論】実践型インターンシップは、若者の就職に対する判断基“軸”を形成する！

本調査では、対象となる学生の母数は少なく、データには信憑性が低い部分もあります。しかし、その中でもエントリーシート提出数を始めとする各種データ、学生の声から考察したところ、実践型インターンシップは、学生の就職活動において一定の影響を与えたことが伺えます。特に、昨今の職業観の欠如による、エントリー乱発型の就職活動に一定の影響を与える事が見込まれます。社会の中で一定期間働く経験を通して、生き方のロールモデルとなる経営者に出会い、自己を見つめ直し、自分の描くキャリアプランに沿った職種、業界を選択できるようになります。

エントリーシート提出数を評価の基準にすることは議論の余地がありますが、実践型インターンシップは、若者の就職に対する判断基“軸”を形成することに寄与しているといえるでしょう。

■ 調査概要と回答者のプロフィール

- 調査人数: 42人 内、有効回答数: 33人
- 調査期間: 平成24年10月4日(木)～平成24年10月19日(金)
- 調査対象: 平成25年3月末に卒業予定で、実践型インターンシップに参加した大学生、大学院生
実践型の種類: ホンキ系インターンシップ(3～6カ月) / 地域協働型インターンシップ(1カ月半)
- 調査方法: Webによるアンケート調査
- 調査対象の属性
 - 性別 男子17人、女子25人
 - 大学 国立17人、大学院2人、私立23人
 - 種類 ホンキ系28人、地域協働型14人 (重複含む)

■ 調査結果(抜粋)

①実践型インターンシップの職業観への影響度

100% (45%大変役立った、55%多少役立った)

の学生が将来やりたいことを見つける上で役に立ったと回答!

▼就職活動においてインターンシップがどう影響を与えたと思いますか？(経験者の声)

◆Hくん

新規開拓営業を通して自らの強みと弱みを知り、自分を活かせる業種を選択できました。 困難な状況でも自分を信じていることができるとわかり、ハードな業界と言われても、仕事内容・やりがいを重視して選択することができました。また、面接やエントリーシートで自分を説明するエピソードとしてインターンの体験談を活用させていただき、大変役に立ちました。

◆Hさん

大学入学当初、大手企業に入社することを唯一の成功と考えていました。しかし、インターンシップにて中小企業の経営者と関わり、一緒に働き、また個人経営のお店のオーナーと関わる中で、次第に自分の中で実現したいことが形成されました。そして、在学中にカフェの経営を経験することができました。それらの経験全てを踏まえ、就職活動中では自分に合っていると思う企業を中小企業から大企業まで見ることができたと思います。最終的な判断は大企業への就職でしたが、それはその先に描いている中小企業の社長と一緒に仕事をするための下準備だと考えています。

◆Uくん

将来の目標が明確になりました。大企業や都会にとらわれず、中小企業でも田舎でも魅力ある企業があり、生き生き働けるということを知りました。リクナビ・マイナビだけが就職活動ではないことを学び、自ら企業・経営者に訪問して就職活動を行いました。

実践型インターンシップを通して、自分の中で就職における判断のベースとなる“軸”が形成されたという回答が多数ありました。“軸”の形成に関しては以下の3つの要因が関係していることが伺えます。

- ①働く経験を通して、自己を見つめる機会となる。
- ②人生のロールモデルとなる人に出会い、自分の理想の働き方に出会う。
- ③魅力的な企業・業界・地域で働くことで、そこへの愛着が生まれる。

また、「インターン期間中に成し遂げた経験を面接やES(エントリーシート)で活用し、高評価を受けた。」「インターン期間中に会った学生や経営者に就職活動について相談していた。」などの声もありました。

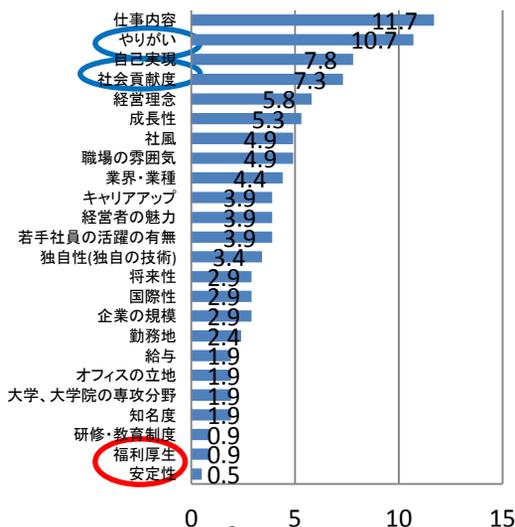
②的を絞った就職活動

実践型インターンシップを経験した学生は、エントリーシート提出数の平均が12.7社になり、全国平均の約半分弱に減少しています。これは、①に伴い自分の軸に沿った就職活動を展開することで、重視するポイントが絞られ、効率的で集中的に行なったこと要因だと伺えます。

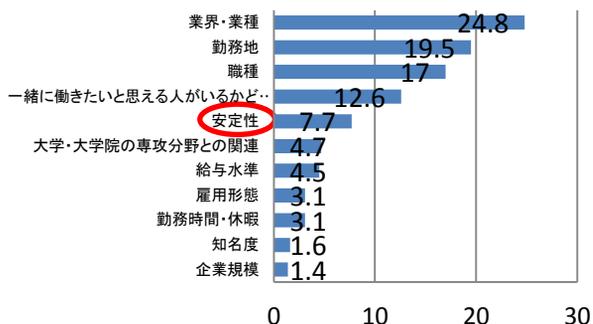
| | エントリー数(平均) | エントリーシート数(平均) | 内定社数(平均) | 出展 |
|------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------|--|
| ホンキ系(長期) ／25人 | 56.1社 | 13.8社 | 1.96社 | 本調査 |
| 地域協働型(中期) ／8人 | 61.4社 | 8.3社 | 1.57社 | 〃 |
| 全体合計 ／33人 | 57.5社 | 12.7社 | 1.88社 | 〃 |
| リクナビ | 58.3社(12年卒対象 2012年3月) | 22.4社(12年卒対象 2012年3月) | 1.83社 (2012年8月) | ・就職白書2012 ・『大学生の就職内定状況調査(2013年卒)』2012年8月度[速報版] |
| マイナビ | 62.6社(2012年6月) | 23.6社(2012年6月) | 1.5社 (2012年8月) | ・2013年卒マイナビ大学生就職内定率調査(6月) ・2013年卒マイナビ大学生就職内定率調査(8月) |
| エンジャパン | 75.4社(2012年7月) | 24.9社(2012年7月) | なし | ・『en』学生の就職情報2013』7月度月例調査結果 |

③実践型インターンシップを経験した学生の企業選びの基準

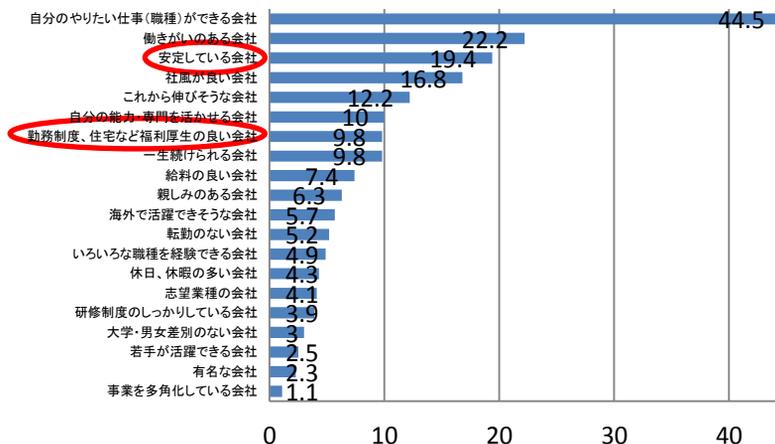
本調査(N=33)



リクナビ就職白書2012(N=408)



2013年卒マイナビ大学生就職意識調査(N=6708)



本調査では、企業選びの上位に「仕事内容、やりがい」が並びました。リクナビ、マイナビの調査と相対的に比較したところ、「福利厚生、安定性」の項目が極端に低いことが伺えます。また、「やりがい、社会貢献度」が上位に絞めています。